

全国社会的課題委員会



全国大学生協連
学生委員会
学生委員長 高橋明日香
編集者 杉山直輝

23/9/18(月)

第3回全国社会的課題委員会

概要

名称：2023年度 第3回 全国社会的課題委員会
日程：2023年9月18日(月) 10:00~15:00
場所：ハイブリッド開催
(国立オリンピック記念青少年総合センター + Zoom)での開催



参加者(敬称略)

- 委員長：後藤有里(東京ブロック副運営委員長)
- 副委員長：木下高志(大阪大学生協 専務理事)
- 生協職員：吉山(中四事業連合専務)、田中(宮城教育大学生協)
- ブロック事務局：藤木(北海道BK)、伊藤、田中(東北BK)、戸張、山田、紺野、二宮(東京BK)、伴(東海BK)、福留、栗岩(中四BK)、吉村、赤澤(九州BK)
- 階層別組織委員会：高橋、鳥井、古橋、杉山、中野、加藤、中丸、梅田、平間、上木(全国学生委員)
- 教職員：朴(三重大学)、今山(京都大学)
- 全国大学生協連：藤江・田足井(理事会室)・鹿住(JUON)
- オブザーバー：谷口(事業連合)

チーム別協議の時間

00 分野にわかれて 具体的に協議

全国社会的課題委員会(以下、全社委)は、「環境」「平和・国際貢献」「激甚災害支援・防災」「消費者」の4つの分野を軸にしたチームに分かれ、具体的に協議をしています。それぞれのチームでの協議の様子は以下の通りです。

a.環境チーム

開催日：7月27日(木)18:30~19:30
今回のチーム別協議では、6月から7月の各地域での環境活動について話しあいました。そして、GI調を活用し学生委員会における環境活動の現状について、覗いてみました。
また、今年リニューアルされるeco-opの活用方法についても話しあいました。
10月12日開催のかんきょ~ずミーティングにむけて、前回の振り返りとともにワークの見直しも行いました。

b.平和・国際貢献チーム

開催日：なし
PeaceNow!の準備等の関係で、チーム別での会議は実施しませんでした。しかし、PeaceNow!3地域のGL(グループリーダー)として全社委メンバーを含む多くの学生事務局に運営の協力をさせていただきました。本当にありがとうございました！
PeaceNow!事後交流会などの呼びかけも通して、全社委メンバーからも呼びかけましょう！

c.激甚災害支援・防災チーム

開催日：9月12日(火)13:00~14:00
今回のチーム別競技では、「ふくしま」スタディツアー(FST)の今後に向けてと、防災月間について協議を行いました。
FSTの当日の様子や参加者の声から、各ブロックでどのように学びを広げていくかや、来年以降参加者を増やすためにできることを考えました。また、今学生が備える必要の高い災害についてや、改めて組織内で災害時の連絡について協議しました。

d.消費者チーム

開催日：9月14日(木)17:00~18:00
消費者チームでは、「各地の取り組み報告」、「リスク講座について」、「食ロスの事前討議」、「これまで振り返り」の4つについて取り扱いました。
「各地の取り組み報告」では取り組み自体は多くなかったものの、初めての取り組みや新学期を意識した視点で活動することができていました。また「リスク講座について」では、地域ごとに「リスク」と感じているものの違いを見つけ、組合員への理解が大切だということを改めて、認識することが出来ました。

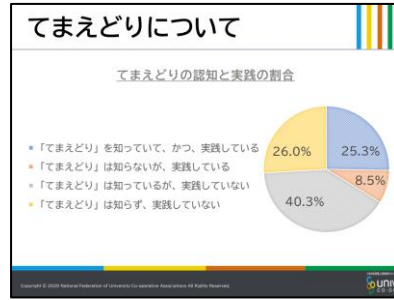
01 店舗における社会的課題の推進について

「食品ロス」の削減を推進していくために！！

今年度は社会的課題×店舗を意識して推進をしています。今回は、「食品ロス」にフォーカスを当て、協議をしました。当日は事業連合の谷口さんにもお話しいただき、大学生協の現状や食品ロス削減に向けたアイデア、実際のあらゆる事例などをお話いただきました。

食ロスを意識するきっかけとして、飲食店やコンビニでのアルバイトで廃棄を目にする機会や昔から家庭で「残してはいけない」「もったいない」という教育されていた、などがあげられていました。

実際に各大学生協で行うにあたっては、てまえどりPOPの設置や割引など意見が出ていた。それらに対しても組合員に「食品ロス」の背景をしっかりと理解してもらうことが重要で、「ただ安いから買う」では根本的な解決に至らないという意見も出ていた。食堂に関しては、ロットを意識してロスを生まないように途中で販売を制限するなどの工夫もしていけるといい、という意見も出ていました。



「てまえどり」を知っているが、実践していない(40.3%)人たちにいかに実践してもらうかが大切。(職員)



何となく新しいものの方が安全という思い込みがより消費期限が長いものを選ばせている。変わらないものを伝えることが難しい。(学生)

02 平和分野の推進について

平和分野の取り組みをもっと広げていくには？

まずはじめに、PeaceNow!2023を開催した3地域(広島・長崎・沖縄)の報告を各地域の実行委員から行いました。大まかな概要と実行委員自身の想いを伝えることで、参加しなかった人もPeaceNow!に対するイメージがわいたのではないかと思います。

その後のグループ協議では、「PeaceNow!での学びも生かしながら平和活動の推進を進めていくには」というテーマのもと、各班で討論しました。PeaceNow!に参加した会員はその振り返りを促進し、ブロックにその学びを広げていくことで各会員の取り組みにつながっていくよね、という話をしました。

各地域ごとにも平和の想いをしっかり伝えたいですね！

【報告】
Peace Now!
Nagasaki 2023
事務局次長 赤澤はるか

そのうえで
協議ポイントは

- 平和分野の活動をブロックで、さらに会員で盛り上げていくためにどのようなことができる？
- ★学生事務局内にどんなアプローチできる？
- ★会員にどのように伝える？

二世の語り部も出てきている。そんな話を広げることができるようになりたい。悲惨だった、というよりとにかく戦争はだめだと。そんなことを伝えていこうとおもった。(職員)

平和活動を考えるにあたっては、国際貢献が非常にかかわってくる。フードダイバーシティなど。平和の考えを取り組んでいくのは大事だが、実際に行動に生かしやすいものもやっていくべき。(学生)

03 激甚災害支援・防災

～大学生に合わせた防災・減災～

今年に関東大震災が起きて100年です。改めて防災・減災の意識を広げるために委員のみんなが何ができるかを考えました。はじめに、今までチーム別協議や会員の取り組みから生まれたツールを再確認し、会員生協でより使われるようにするための方法を考えました。また、防災体験学習施設『そなエリア東京』について共有し、大学生にとって特に必要な防災グッズや防災に関する知識について考えました。一人暮らしや寮生活を始めたばかりで、大学近くのことを知らなかったり、食料をストックしていなかったりする人がいるよねという話になりました。

組合員が防災の意識を持てるように、組織委員や生協職員、委員の皆さんがまずは防災について考えていきましょう！

の前に…今年はどうな年？

関東大震災から100年。(1923年9月1日)
東日本大震災から12年。(2011年3月11日)

改めて防災・減災について目を向けるにはいい機会!!

大学生にあわせて…??

- ・大学生だからその備えはなにがあるでしょう？
- ・ものも知識も。
- ・それをしっかり新学期や日常期の店舗で推し進めていますか？
- ・大学生はその知識を知っていますか？

やり続けることが大事。特別なことではなく日々何の時でもとり上げていくことが身につけていくようにしたい。(職員)

家から遠い人いる。自分は実家から大学まで乗換2回1時間半。大学にいたり帰る途中だと、家に帰れなくなる可能性がある。連絡が取れなくなるかもしれないので171など使って安否を伝えたり、大学で災害にあったらどうするか？を家族と話しておくとか。(学生)



+ α 地域報告で報告された、注目する取り組みとポイント



環境

東京海洋大学生協「総代会」

総代会でアイゴフライとイスズミメンチカツの試食を行いました。海藻の群落が著しく衰退する磯焼けが問題になっており、磯焼けは海藻だけでなく、魚を含む水産物の生息場所にも影響を与えています。磯焼けを引き起こす生物の中にアイゴ・イスズミがいる。だから、被害を抑えるために食べて数を減らすという取り組みが行われています。

産地の地元の方がおいしく食べられるよう試行錯誤し、フライやメンチカツを考案した。そして、大学生協でも以上の点に着目し、組合員の方にこの取り組みを知ってもらうべく、この試食会を実施しました。総代会を通して、環境問題について組合員が考える機会を提供できました。

奈良教育大学生協

「リリパックの回収方法～これで君もリサイクルマスター～」

部会(7/26)で制作後、学生委員会のSNSで動画をアップしました。現在の分別率は3%なので、それを知らせているのがいました。組合員の目に留まりやすいSNSを活用してリリパックの回収方法を周知することが出来ました。

激甚災害支援・防災

水産大学校生協「大雨への注意喚起」

海に近い学校のため、以前の台風で家に被害を受けた学生もいました。7月初めには大雨で不安に思った生徒も多く、台風が多くなる前に台風への備えをInstagramで発信していました。また、学校周辺のハザードマップも独自に作成し、合わせて発信していました。

宇都宮大学生協「学部超越！課題探求型ワークショップ 防災編～天災！防災！無病息災！～(略してGKW)」

防災講話や避難所運営ゲーム、非常食体験を行いました。他学部との交流を通して、新たな視点を得てもらうことで、日頃の考え方を進化させ、コミュニケーションをとるきっかけになりました。

名古屋市立大学生協「生協まつり ガラボン De 防災」

購買で500円以上のレシート1枚で1回、防災グッズが景品になっているガラボンに挑戦できる企画を実施しました。防災アイデアや地震が起きた際の避難方法についても展示がされていました。店舗の利用促進をしつつ、参加者が企画を楽しみながら防災意識を向上が高めることができました。

平和・国際貢献

東京外国語大学生協「プライド月間」

プライド月間は、LGBTQ*について改めて正しい知識を促し、誰もが公平な世の中の実現を目指す活動です。部員もLGBTQ関連の書籍を読んで学習し、店舗に飾るPOPを作成しました。部会内でプライド月間企画を行う理由を明確化し、部員全体での共通認識をとりました。

島根大学生協「PeaceNow!Shimane」

現在の私たちの生活が、平和の上に成り立っていることを実感してもらうため、島根県に遺る戦跡をめぐり、世界各地の紛争の現状などにも興味を持ってもらうことを目指しました。

企画実施後には、学んだことを広報ボードに掲載し、組合員に広く普及させることができました。

関西北陸ブロック「舞鶴フィールドワーク」

戦後、各国に散らばっていた日本人が本土に戻ってくる『引揚』地だった舞鶴を訪れ、引揚当時何が起きていたかを学びました。シベリア抑留などの体験ブースもあり、実際に目で見て、感じて、その過酷さを目の当たりにしました。

消費者

関西北陸ブロック「消費者タスクチーム」 「しょうひしゃ交流会」

- ・「消費者タスクチーム」では、持ち寄り学習会と題して、「健康食品」と「エコツーリズム」について各自で学んだことを共有しました。また、しょうひしゃ交流会に向けて、コンテンツの1つである**ロールプレイング体験**を実践しました。実際の消費者トラブルを、寸劇を通じて体験してもらえるように、準備を進めました。
- ・「しょうひしゃ交流会」では、消費者教育タスクチームメンバーによる、持ち寄り学習会と、ロールプレイングを行いました。1・2回生の参加者も多く、新成人の早い段階、また**10代で消費者としての知識を獲得できてよかった**という声や、**自分にも起こりうることとして、他人事ではなく、自分事に捉えよう**と思ったという声が多く寄せられました。

愛知教育大学生協「生協フェスタinSummer 初たま学」

- ・卵が値上がりしている理由を紹介しました。そのあとに「卵」に関するクイズを実施しました。学生生活で体感している「卵の値上げ」がなぜ起きているのか、伝えることで、社会に目を向けるきっかけづくりを行うことが出来ました。

福山市立大学生協「クレジットカードについて機関紙」

- ・大学生におすすめのクレジットカードやクレジットカードに潜むリスクについてを紹介していました。大学生になり、ネットショッピングや旅行等で「クレジットカードがあると便利だけど、どれがいいのかわからない」、「どういったリスクがあるのか」などの想いに対して、知識やあらゆるカードの特徴を伝えていました。

